

# 新山協ニュース

▲ 発行者 鈴木敏雄

▲ 発行所 新潟県山岳協会

〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428



モンテローザ4,200m附近からのマッターホルンとダンデーヘレン

## ヨーロッパアルプス

新潟市末広町

平 田 静 一 郎

ヨーロッパアルプスは、フタカネバラ等が多い。2000  
 ランスからオーストリアに跨る。0mを超えると草帯となる。  
 がる長大な山脈である。そのいわゆるアルプとよばれる牛  
 うちフランス・イタリア国境や羊の遊ぶ高山植物帯。初夏  
 のモンブラン山群。ツェルマツトを中心とするパリス山群。  
 その北方ローヌ川を隔てたベアネモネがびっしり。7月半  
 ルナーオーバーランドに、4ばを過ぎると、リンドウ、ナ  
 000mを超す山々が集中すデシコ、キキョウ、ワスレナ  
 る。緯度が46度と北にあるたグサ、ユキノシタ、菊科の花  
 め、平地の雨は3500m以上が一面に咲く。3000m以  
 上では雪となる。けれどもア上では種類は限られてくるが  
 プローチの容易さ、小屋の完花は多い。日本と共通のもの、  
 備で登山装備は春山程度で充全く見られないもの、非常に  
 分だ。植物は緯度が高いため珍らしいものがたくさん見ら  
 林相は単純である。1500れる。マッターホルンでは4  
 m以下はブナ、カエデが主で、000mを超えても、タネツ  
 下藪の密生はなく明るく開けケバナが咲いていた。  
 ている。蚊もいない。200 昭和59年、60年、61年とア  
 0m附近まではハンノキ、ナルプスにでかけたが、59年7  
 ナカマド、エゾマツ、カラマツ、トウヒの林で、下生えに天のうちに」と時差ボケを無  
 ツツジ科のアルペンローゼ、視して、シャモニ到着の翌日

すぐに登ったため、グーテ小屋への初日はひどい眠気に脳まされたが、グーテから頂上へ1000mの登高は、以前キリマンジャロの高所経験のせい快調そのもの。快晴に恵まれ、朝4時にグーテを出て10時半には戻ってきた。この年は偵察と花が目的で、シヤモニ、ツエルマツト、グリンデルワルト周辺の山と花を見て歩く。

60年は、昨年初日のモンブランで苦登した時差ボケを癒すため、アテネで幾日かを過ごし、ツエルマツトに入る。早速ガイド事務所へガイドの依頼に行く。初老の大柄な男が、英文のマッターホルンの登山心得を出し、登る前にフイジカルトレーニングをして欲しいという。日本で充分やっているからいいと押問答をしているうち、「あんたも年だろ。」にがっかり。どうしると言うのだと聞くと、明日メッテルホルンに登ってみてくれと地図を渡す。やむなく翌日メッテルホルンに登る。

この山はチナルルートホルン4221mから、ツエルマツトの谷へ延びた稜線上のピークで3406m。ツエルマツトから1800mの標高差がある。同じ目的で登っている人が4〜5人。羊の群れる草原は花が多く、水河上に鋭い頭を屹げる頂上からワイスホルン、チナルルートホルン、オーバーガールホルンが圧観。眼下のツエルマツトを隔てて、ドームからモンテローザに雲が流れる。足慣らしの山どころかアルプスでも一級の山だ。ツエルマツトに降りると雨になった。ガイド事務所へ。ガイドの件はOKだが明日から4日間は降雪で登山禁止だという。それでも午前中はよく晴れるので、モンテローザ小屋、ヘルンリ小屋へと女房を連れて花を眺めに行く。雨は決まって3時過ぎから降る。朝、山は真白だ。吹雪のブライトホルンもこの年のいい思い出になった。

61年は天候に束縛されないため、帰路の予約はしないで

荒天のときは他処を廻ることにして、7月17日ツエルマツト入り。翌日オーバーローホルン3415mへエーデルワイスを探しに登ったが、雨、4〜5日続くという。それならと予定を変え、ミラノ、ベネチア、フェレンツェ、ローマと廻って26日午前に戻る。久方ぶりの快晴、じっとしている手はない。午後から、去年吹雪だったブライトホルンに登ってくる。翌日は二度目のオーバーローホルン、ツエルマツトを挟んでメッテルホルンに對向する展望台。この日も探し方が悪く大群落のエーデルワイスを見落としてしまった。夜ベルベデルに電

話してK氏にガイドを依頼する。明日、小屋で待つという。7月29日、星はうすが風の無い良い天気。東壁の上に霧が流れる。4時半、30人ばかりの最後に出る。その方が待つことも少く、スムーズに登れるしライトも節約できる。下からは圧倒されるような急な山だが、案外傾斜はゆるく、

ホールドは多く歩き易い。小便可さいソルベイ小屋を過ぎると、小さな壁をよじるところもあるが、岩に無経験の私も難しいことはないし、目のくらむような断崖に立つところもない。肩の雪から大きな固定ロープに縋る。急な壁に出る。その上は堅くしまつた雪の斜面で、電光型のトレースがありアイゼンがよく利く。頂上8時半。湧き立つ雲の上にモンブラン。嘴と足の赤い黒い鳥がいる。気温マイナス2度、チョコレットが噛めない。9時に降りる。往きはよいよいだが五十肩の再発でロープに縋る右手が痛い。肩の雪から下は暑かった。ヘルンリ12時半。翌日から又雨。インターレーケン、チューリヒを廻って8月3日に戻って

ヒを廻って8月3日に戻ってくる。モンテローザ4634m。いい名前。氷の山を意味するそうだが、バラ色の山の方を通りがいい。8月5日、昨夜おそくまで降っていた雨もやみ、3時に小屋を出る頃は満天の星空。3600m辺

り、深雪で登高無理というガイドのイムボーデンの判談で、心ならずもモンテローザ小屋に戻ったのが7時半。6日、再び3時に出る。先行グルーアの灯りがグレン水河側のモレーンに登っている。こちらは近道のプラトウに登る。昨日の使い残りの電池は暗くて役に立たない。目を凝らしリスカムの雪明りと、昇ってくるオリオンの星明りを頼りに3200mの雪原にでる。複雑にクラックの入ったクレバス帯を過ぎ、広大な斜面を登る。小屋から1800mの長い登りも、刻々色を変える山に魅せられて長いと感ぜない。ガイドは2mを越すスイス人。急がず、休まず。真青なスカイラインを区切る小さな鞍部がザツテル4360m。初めて陽がさしてくる。アイゼンをつけてひと登りすると、頂上に連なる岩稜の一角に出る。天気の良い日はここが頂上だとイムボーデン。ピッケルを

デポして500m先の岩塊に向う。右は岩、左は雪の壁が

## 第42回 国民体育大会記念山岳競技 北信越ブロック福井大会 新潟県予選会案内

1. 期 日 昭和62年 5月10日(日)  
 2. 会 場 集 結 地 北蒲原郡笹神村出湯 県民いこいの森キャンプ場  
 踏 査 競 技 扇 山 周 辺  
 登はん競技 少年自然の家上部 赤安岩  
 使用地 図 国土地理院発行 2万5千分の1 出湯

3. 競技実施種目  
 ・種別とチーム参加人員

種 別	種 目	監 督	選 手	計
成年男子	登 はん	1	2	3
成年女子	同 上	1	2	3
少年男子	踏 査	1	3	4
少年女子	同 上	1	3	4

競技はチーム単位とする。(所属山岳会、学校から幾チームも出場可) 所属山岳会、学校毎でチーム編成困難な場合は、所属山岳会、同一校以外でチーム編成してもよい。

4. 競技規定及び方法 (社)日本山岳協会山岳競技規則による。  
 5. 新潟県代表選手の選出と表彰  
 (1) 審査は競技種目毎に定める審査基準により行い、種別得点により各種別の第1位から第3位までに賞状を授与する。  
 (2) 新潟県代表選手の選考は、優秀チームあるいは他のチームの中から優秀選手により代表チームを編成する。  
 (3) 成年男子、成年女子、少年男子、少年女子の新潟県代表チームは北信越国体(福井)に出場できる  
 6. 参加申し込み方法と参加料  
 (1) 成年監督選手及び一般参加 1,500円  
 少年監督選手 1,000円  
 役 員 1,000円  
 (2) 所定の用紙により5月2日(土)まで必着するよう下記宛郵便で送付すること。直接持参されてもよい。〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 新潟県山岳協会宛 ☎0258-32-0428

7. 競技日程

種 別	日 程		
	5月10日(日)		
	9:00	9:30	10:00
成年男子	受	開	競
成年女子			技
少年男子		始	準
少年女子	付	式	備
			登はん
			踏査
			表
			彰
			式

8. その他

- (1) 審判員会議 日 時 昭和62年 5月9日(土) 18:00~  
 場 所 北蒲原郡笹神村出湯 笹神村老人いこいの家  
 (2) 監督会議 日 時 昭和62年 5月10日(日) 9:00~  
 場 所 北蒲原郡笹神村出湯 笹神村老人いこいの家

足許から落ち、すれ違ってもま  
まならぬ岩稜。岩を抱きチム  
ニーをよじ登る。固定ロープ  
の欲しいところ。やがて狭い  
小屋が目の下。イタリア側登  
雪のない頂上9時15分。気温  
5度、あったかい。アルプス  
最高点に立つ、マルガリータ  
山者が手を振っている。イタ  
リヤ側は雲海だが、スイス側  
は雲一つ無い快晴。モンブラ  
ン は勿論、アレッチホルン、  
 ユングフラウもはっきり。12  
時半、小屋に戻ると、観光客  
が拍手で迎えてくれるのが気  
恥かしい。(ここにでる時間  
は夏時間。)

# 粟ヶ岳記念山開き案内

加茂山岳会

K2世界一？  
米隊試算—エベレストを38m抜く

加茂山岳会主催で第一回粟ヶ岳山開きを、昭和33年春多くの市民が参加して、残雪の頂上に立ってから早くも30年が過ぎました。その間参加30名ぐらいの山開きから200名以上参加の山開きまで、毎年4月下旬から5月上旬に山開きが行われて来ました。粟ヶ岳の登山道も毎年当山岳会で整備しており大変良くなって来ました。又、水源地の登山口に休憩場、駐車場、トイレなどが県、市の予算で完成する。10500m砥沢の峰に避難小屋(粟ヶ岳ヒュッテ)も39年に山岳会員の手で完成して、その後3回の補修する。現在多くの山友達が利用している。

## 第30回

### 粟ヶ岳記念山開き

主催 加茂山岳会

月日 4月29日(水)

時間 午前7時加茂駅前出発

8時山ノ神

12時頂上着

午後1時頂上発

4時水源地着

5時30分駅前着

下山後、水源地にて記念式

会費 大人1000円

子供 500円

申込先 横山克成

☎ 52-2798番

当日受有、記念品有

近年は参加者多く、新潟市、長岡市などから参加者有ります。貸切バスにて水源地へ行き山ノ神で神事をおこない、タムシバの花を見て残雪を踏んで頂上に立ちます。下山後、水源地で記念式を取りおこない、参加者には山岳会より、なにに賞を贈呈いたします。多くの山男女の参加を待ちます。なにが有るかは当日のお楽しみです。

世界最高峰といわれるネパール・中国国境のエベレスト(8848m)が「世界最高峰」のタイトルをカシミールのK2(8611m)に奪われる可能性が強まってきた。昨年5月から9月にかけて、エベレストの北西145Kmのカラコルム山系にあるK2に登った米登山隊のハイテク機器による試算で明らかになった。

この試算が確認されれば、これまで世界第2位とされていたK2は約275mも高い8886mとなり、エベレストを38m抜くことになる。

この試算に使った観測器は衛星移動観測器と呼ばれ、ランス・オーエンス博士を隊長とする8人の米国隊が昨年K2に登った際に設置した。頭上を通過する衛星に信号を送り、高度を測定する仕組み。

その結果、K2のある台地がこれまでの観測値より275m高い位置にあることが明らかになり、オーエンス隊長は、当然K2そのものもこれまでより高くなるとしている。

オーエンス隊長によると、パキスタン政府も過去10年間の調査でK2がこれまで言われていたよりも高いと主張しており、米国隊は今年夏に改めて公式な高度測定をする計画だ。

(新潟日報より)

協会ニュースの充実を目差し、各地の山岳記事、広告集めをして下さる方を求めています。

また各山岳会からは、会の紹介を入れた記事、会がホームグラウンドとする山のガイドの投稿をお願いします。

会員の新聞にしたいと思っています。

あ・と・が・き

読書は万能の基

新潟市営所通1-301

学生書房

電話 025-222-9870番

